



U-net通信 2014年9月 Vol.81

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分でできる
なにかをしてゆくのだ

発行:地球環境・共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 http://www.unet.or.jp 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫



EMによる地域貢献を深める アトムグループ2300人 ～ 愛媛県松山市 ～

取材 / 杉山

「EMとことん推進隊」でEM徹底推進と指導

今年11月1日に開催される「善循環の輪“えひめ”の集いin松山」を前に、少子・高齢化社会をサポートするアトムグループが目指すこれからの地域社会構想(医療・福祉・パブリック・サービス)とEMとの関わり及び進捗状況を、U-ネット愛媛県世話人の野本千壽子氏(愛媛EM普及協会会長)に伺った。今年7月には同グループ傘下の33の事業所とその従業員が一枚岩となってEMを各職場に正しく導入できる様、「EMとことん推進隊46人(統括責任者:二宮孝夫氏)」が組織化されたが、野本千壽子氏はその指導責任者でもある。EM講習(約90分)でEMとは何か、特徴、身近な活用例、善玉菌EMの棲める環境等の座学に加え、米のどぎ汁発酵液、生ごみ堆肥作り実習をアトムグループ社員2300人全てが習得する事になる。最高経営責任者・宇都宮賢八氏やその経営スタッフも最初に受講した事でも、その取組への意気込みを感じると共に、このEMを使用した地域貢献は、愛媛県全域で確実に軌道に乗っている。



▲真剣に取り組むEM講習会風景



▶EMとことん推進隊メンバー。上段右から二宮孝夫隊長、野本千壽子指導部長、逸見佳子氏、西宮京子氏、三原あゆみ氏、坂本 泉氏、下段右から小野美佐子氏、佐川いづみ氏、前川恵里子氏、白石 泉氏、池田由美子氏、亀田陽子氏、永野有紀氏、内海恵美氏、新田三枝氏



▲独自のプレゼン資料を使う野本千壽子氏

アンパンマン病院の異名を持つ天山病院小児科 チューリップ



▲医療スタッフ。前列左が小野山啓子医長

アトムグループには保育園(3)、幼稚園(1)があり、多くの園児を預かるが、子育ても仕事も楽しむ為に「子供を預けて働く基礎知識」や「病児保育」等のセミナーを開催したり、「受診中に他の病気に感染しないか…」、「仕事中に子供が体調不良になったら…」等の心配事を丁寧に説明し不安解消に努めている。この病院の特徴は子供向けにアンパンマンをあしらったユニフォームにある。保育園や幼稚園内に病院があるような錯覚に陥る。院内は明るく清潔に保たれているが、特に感染症対策やトイレ等の清掃にEMを使用していると言う。

EMによる園庭管理をする松山認定こども園 星岡

広々とした園庭は土埃が酷かったそうだが、EM活性液を散布するようになってそれは杞憂に変わった。どうしてそうなるのかは分からないと言うものの、EM本来の植物の成長に良い効果をもたらすと言う点で芝生にも大量に散布した。その甲斐あってか、すこぶる成長が良く園児達の踏圧にも負けずに青々とした姿を保っていたが、そんな折にどう言う事がモグラが寄ってきて芝面を“ポコポコ”にされて困った事がある。教えられたEMセラC入り活性液を500mlペットボトルに詰め、等間隔に地面に設置したところ来なくなった。不思議なEM効果に驚いたと言う。2階のベランダや屋上に設置される夏場の簡易プール清掃にもEMを使っており、この洗い水を園庭に散布する等で一石二鳥の効果を生んでいる。また、給食残渣は生ごみ堆肥作りに廻され、出来上がった良質の生ごみ堆肥は自然栽培を基調とする専用圃場で再利用されている。

EMによる在宅看護及びポータブルトイレによる防災対策

アトムグループの在宅介護複合施設や介護老人保健施設では、徹底したEM利用がなされている。米のとぎ汁発酵液の希釈液を使い、雑巾がけ、食器洗い、台所や洗面台、トイレの掃除、部屋やトイレの消臭・防臭に効果を出している。在宅看護のヘルパーさんの話では、EMで家事量が減少して助かるとの事。EM談義に参加するお年寄りも多く、交友関係も出来て生き甲斐創出にも貢献している。

さて、いざ災害に遭ったらどうするか。まずは自助、そして共助、公助となるが、普段からの災害に対する心掛け一つで随分と変わる。水や食料の備蓄は当然だが、水洗式トイレが破壊された際のトイレ問題にもいち早く取組んでいるのもアトムグループで、「善循環の輪“えひめ”の集いin松山」ではEMポータブルトイレの使い方について特別展示を行う。特にEMボカシ併用による消臭・消毒効果に注目が集まる。



▲EMボカシでポータブルトイレの消臭・消毒をするヘルパーさん

障がい者達の自立を促すEM製造現場

アルムの里(障がい者自立訓練就労支援センター)は、多くの障がい者が自立を目指す活動拠点の一つ。パン工房での食パン、自然農法による自然野菜は施設給食食材として使われ、施設利用者から喜ばれている。この他にも

木工製品作りや各施設に配るEM活性液製造も重要な活動の一つである。2台の百倍利器によるEM一次活性液を500mlペットボトルに小分けしたり、EMプール清掃をする市内76校の小中学校に130Lずつ年2回供給する作業もあり、忙しくも充実していると言う。現場には多くの配布用専用10Lタンクが整然と並び、クリーンなEM製造工場を彷彿とさせるが、毎日の作業終了時には機器や容器をきちっと清掃し、整理整頓していると聞き納得。同施設は、今年、松山市明るい社会づくり推進協議会より「感謝状」を授与された。



▲左より野志克仁松山市長、松山市明るい社会づくり推進協議会・井門照雄会長、EM環境クラブ・松本寿子氏、アルムの里苑長・池田由美子氏、EM普及協会会長・野本千壽子氏



諏訪湖の直接浄化から流れ込む河川の浄化へ

～「甦る諏訪湖」実行委員会～

取材 / 大島

平成24年9月から平成25年8月の1年間、諏訪湖の浄化に取り組んだ「甦る諏訪湖実行委員会」代表の山崎公久氏を訪ね、その後の浄化活動について話を聞いた。

1年間の実験実施後、漁協との協力関係が構築できず現在諏訪湖では、「海の日」におけるEM一斉投入しか行っていないとのことであった。今後は、諏訪湖の直接浄化から諏訪湖に流れ込む32河川の浄化活動を行うことにより、諏訪湖の浄化につなげるという方向に切り替えるとのことであった。

現在の進捗状況を報告する。一級河川の舟渡川に流れ込む3級河川「落水川」がその一つである。この川は、流程6kmの河川であるが、上流では温泉水が流れ込み冬であっても凍結しないため以前から悪臭に悩まされていたという。以前も浄化活動に協力し、植物筏の設置による浄化なども試みたが、大きな成果は得られなかったようだ。今回は、EMタンクの設置場所の認可も下り来年から本格的に週3tのEM活性液を投入する他、年間でEM団子投入1万個を目標にしているという。

近隣の小中学校のプールへのEM活性液投入と並行して行うことで効果をあげたいと意気込む。

ホタルの飛び交う池へ 「北久保の池」

諏訪湖に流れ込む支流河川の上流に、中央アルプスからの湧水でできた池がある。地元の人々は「北久保の池」と呼んでいるが、この池をビオトープ化し近隣の小学校の観察

池にしようと整備が進められていた。

手作りの周遊コースの他、湧水を引きこみ小川を整備し、源氏ボタルの餌である「カワナ」の増殖を試みている。この池の浄化にもEMが活用され、「落水川」同様諏訪湖に流れ込む。



▲「北久保の池」で右から山崎公久氏、荒井亨氏、御子柴昇氏

EMの実験場でドジョウ養殖！

河川からの諏訪湖の浄化という取り組みは、会員の楽しみにもつながっているようだ。右の写真は、川から引き込んだ水を使っでの「ドジョウ・タニシ・マシジミ・カワナ」の養殖実験場である。

ここでは週500LのEM活性液を投入している。周囲はテラCが入った500ccのペットボトルが埋め込まれており害虫対策も万全だ。

放したドジョウも順調に育っているようだ。



▲支流の水を引き込んだ実験場

第5回「海の日」全国一斉EM団子EM活性液投入

～ 集計途中結果報告 ～

全国の団体・個人が多数参加して各地で行われた全国一斉EM投入。U-ネット事務局に寄せられている報告書の途中集計結果と、写真の一部を紹介する。今年は、各地に被害をもたらした台風8・11・12号による豪雨などの天候不順による影響もあり、現時点で前年に比べ数値はふるわないものの、続々と報告が寄せられている。なお、最終的なとりまとめ結果は次号に掲載の予定である。

| | 団体・個人数 | 参加人数 | EM団子(個) | EM活性液(L) |
|-----------|--------|--------|---------|----------|
| 本年8月20日現在 | 246 | 10,175 | 224,374 | 472,595 |



■岩手 千厩川 一関市川崎町女性協議会



■宮城 貞山運河 平野勝洋世話人他7団体



■福島 長沼 エコクラブだて



■茨城 相模谷親水公園 NPO緑の会



■神奈川 境川 カリフォルニア×かわさきFM



■大阪 石津川 ザ・アースさかい



■三重 伊勢湾 EMわくわくネット三重



■石川 徳光海岸 SPC Japan



■福岡 新々堀川 堀川再生の会・五平太

i n f o r m a t i o n

事務局からのお知らせ

■ 9月以降の主要行事のご案内 ■

●善循環の輪・岐阜県の集いin 瑞浪

日程 9月27日(土)

会場 瑞浪市窯業技術研究所(旧 陶磁器会館)

●善循環の輪・えひめの集いin 松山

日程 11月1日(土)

会場 松山認定こども園 星岡 松山幼稚園

●善循環の輪・兵庫の集いin 稲美

日程 11月8日(土)

会場 稲美町立コミュニティセンターホール



着々と進む兵庫県南西部のEM活動

取材/大山

カエルが飛び交う健康な土壌づくり 三田市 NPO北摂EM研究会

8月のお盆過ぎに三田市福島にあるNPO北摂EM研究会理事長林和夫氏の農場を訪れた。まず驚いたのは、環境の悪化に一番弱いとされるカエルが畑のあちこちで元気に飛び回っていたこと。この畑は生き物に優しく、ここで栽培される作物は、人に優しく健康を保つ源になると思った。事実、林氏はじめEM研究会メンバーが出荷する野菜は大好評。大阪市や神戸市などのマルシェ、大手スーパーや直売所では慣行農法の野菜より高値なのだがEM農法の野菜はすぐ売り切れてしまうそうだ。

林氏は研究熱心で、野菜栽培の病害虫対策として、畑の畝を作る際に竹笹の束を埋めて効果を上げている。無農薬・無化学肥料の有機栽培に徹して、消費者・栽培者・地域環境にも優しいEM農法を目指している。また、後継者育成にも熱心で研修生の受け入れや、販売も含めた後進の指導にも力を入れている。



▲自身のハウス内で竹笹を埋め込む林和夫氏

参加する人が良かったと実感 神戸市北区 神付ふるさと村

六甲山の裏、神戸市とはいえ里山風景があちこちに残る北区大沢町に「神付(かんずけ)ふるさと村」がある。250区画からなる貸農園から構成されていて、民間の神付市民農園管理組合(岩田恪夫組合長)が運営する土を介したコミュニティゾーン。この農園の利用者15人からなる神付EM研究会が安心安全で美味しい野菜づくりを実践している。これをリードするのが岩田恪夫組合長と事務局長の土居通夫氏で、ふる



▲神付ふるさと村のEM研究会農場で岩田恪夫組合長(右)と土居通夫氏

さと村の年間行事である収穫祭・品評会・料理講習会・もちつき・味噌・漬物など事業を積極的に催し、友達作りにもなり「参加して良かったと実感できるコミュニティファーム」を目指している。因みに今年の収穫祭では蜂の専門家を招き「蜂に優しい農業を！」の講演会を企画して、環境の大切さを呼びかけていきたいと岩田恪夫組合長は語った。

船場川にホタルを呼び戻そう 姫路市連合自治会城西校区

世界文化遺産の姫路城は、白鷺城と称される白壁で美しい天守閣で有名だ。この城の外濠に沿う船場川でホタルを呼び戻す運動が地域住民から期待されている。この運動を主催するのが姫路市連合自治会城西校区(姫路市連合自治会・岩成孝会長)で、岩成会長らの8年にもわたる地道な努力が実り、今年、兵庫県から地域活性化事業として助成が決定した。内容は船場川の法面に水に流されない草類を植栽して、

ホタルの住処にするもので26年度中に完成予定だ。植栽工事が終わったらホタルが棲める環境に改善する役割の一端を担うのがEMで月間2トンの活性液を投入するという。これの活動主体は姫路市で長くEMでの環境改善活動を進める植木房幸氏で、来年3月から地元の城西小学校と共に進めることになっている。



▲船場川を背にし岩成孝会長(左)と植木房幸氏

EM栽培のノウハウで天満大池を浄化 稲美町 岩本農園

約20年前からEMでの農業を進める岩本農園の岩本邑(さとし)氏は桃など果樹栽培、トマト・小松菜など野菜栽培と稲作にEMを活用している。息子さんも主にEM活用のイチゴ栽培で



▲天満大池をバックに岩本邑氏

農業を引き継いでいる。岩本さんのトマトは、昔の味がすると言って好評だ。光合成細菌入りEM活性液で8年間連作して、なお好調を維持しているという。

稲美町には菅原道真を祀った天満神社があり、これに隣接して天満大池がある。秋の祭礼は、この大池に神輿を投げ入れるのが特色の有名な祭り。浄化前の大池に入ると、祭り衣装で身に着ける白の下着などはヘドロで汚れ悪臭が付着するので1回で廃棄していたそうだが、岩本さんらがEM団子で浄化するようになってからは、悪臭も消え白い衣装も再使用できるようになったという。

本場の酒米と玉ねぎなど野菜が大好評 加東市 西村農産農園

西村農産農園(西村和晃園主)はEM農法で酒米(山田錦)とコシヒカリを約5ヘクタールの稲作栽培とタマネギなど野菜栽培を手がけている。西村氏は琉球大学で比嘉照夫教授の薫陶を受けた優秀なEM農法の実践指導者である。



▲ピーマンなど野菜が栽培される農場で西村和晃氏

酒米は主に精米率が50%を超えるような大吟醸に使用されている。西村氏の酒米は芯白がしっかりしているため造り酒屋から好評で、全て契約栽培だという。秋口から植え込まれる玉ねぎも安心安全で美味しいとの評判が広まり、ドレッシングの材料に欲しいとのメーカー要望に答えている。トマト・ピーマン・甘長唐辛子など夏野菜もデパート・スーパー・直売所で抜群の売れ行きなどの評判で、レストラン等飲食店からの引き合いも多い。